

阪神・淡路大震災から、26年が経ちました。

震災により、お亡くなりになられた方々に、心より哀悼の意を表します。

コロナの感染が拡大し、緊急事態宣言が発令されるなかで1月17日を迎えました。この日、震災の教訓をどのように次の世代に継承していくか、大事な課題になっています。

そのため神戸市では、引き続き追悼行事を続けていきます。さらにLINEを活用した災害情報共有訓練など新しい時代に合わせた、また若い世代のみなさんも参加しやすい訓練を行っていきます。

子どもたちにも唄い継がれてきた歌「しあわせ運べるように」を、次の世代にも伝えていくために、2番目の神戸市歌として指定することにしました。音楽というかたちでも、神戸市は将来にわたって震災の経験を継承していきます。

また、神戸市は、震災時に受けた国内外の多くの支援に対する感謝の気持ちを持ちながら、防災・減災・安全・健康などの分野で、他の都市や地域に貢献する都市であり続けます。

近年は、全国各地で災害が相次いでいます。自然災害だけでなく、新型コロナウイルス感染症拡大という、これまでにない危機に私たちは直面しています。

神戸市は、引き続き医療・検査・相談体制を確保し、新型コロナウイルス感染症対策を最優先とした取り組みを進めていきます。

市民のみなさんにおかれましては、ご自身と大切な方の命と健康を守るためにも、一層の感染防止対策の徹底に取り組んでいただくよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、改めて、震災でお亡くなりになられました方々に、重ねて哀悼の意を表し、追悼のことばといたします。

令和3年1月17日  
神戸市長 久元 喜造